

安心して暮らすためにも、町会の活動である在宅ふれあい事業を通じて、市民に救急車の適正な利用をお願いしていきたい。

また、一方で高齢者の孤独死の問題もある。孤独死を防ぐための活動を町会でしていきたいが、加入率が低く、救急医療に関する情報提供など町会の活動を伝えづらい現状にある。しかし、これらの問題を乗り越え、医療機関や救急車の適正な利用を呼びかける運動をしなければいけないと考えている。

#### 4. 行政の立場から

市立函館保健所長 山田 隆良

市民の安心・安全の確保のためにも救急医療の確保は重要な課題の一つである。この救急医療を脅かす問題として医師の疲弊・不足などがある。

道南地域は道内においては比較的医療体制の恵まれた地域として理解されているが、専門医・大病院

志向やコンビニ受診など時間外を中心とした医療機関への負担が増えてきている。安心して暮らせる地域の医療を守るためにも、限られた医療資源の有効活用により実のある救急医療体制とすることが喫緊の課題として認識している。

行政として、夜間急病センター事業の充実や救急医療に関する普及啓発活動により、若干ではあるが二次・三次救急の負担が軽減され、救急医療体制が整備できると考える。

今後の課題としては、内科・外科以外の救急医療体制の整備や空白時間帯の対応など検討していかなければいけない。

この後、パネリストによる全体討論、フロアとの意見交換を行い、函館市医師会・伊藤会長の閉会挨拶で終了した。

## お知らせ

### 生涯教育用ビデオライブラリーの廃止について

—平成22年3月31日を以って貸し出し業務を終了いたします—

常任理事・学術部長 渡邊 直樹

昭和62年度より、会員の生涯教育を担うため本事業を開始してまいりました。

しかし、保管ビデオの劣化、制作著作権に関わる購入制限や情報媒体の変化に伴い、ここ数年は大幅に貸し出しの需要が減少しております。そのため、平成22年3月31日を以って、本事業を廃止することといたしました。長い間、ご活用いただき、誠にありがとうございました。

なお、同様の貸し出し業務につきましては、下記団体でも行っておりますのでご案内いたします。

- 日本医師会（ビデオライブラリーは日医会員のみ閲覧可能） <http://www.med.or.jp/>
- 北海道産業保健推進センター（札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7ビル2階 011-242-7701）
- 北海道社会福祉協議会（札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 011-241-3976）
- 北海道健康づくり財団（札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館5階 011-232-5500）

北海道医師会事業第三課

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目

TEL 011-231-1726/FAX 011-252-3233

E-mail jigyo3ka@m.douji.jp